日文教育資料［小学校社会］

社会科 NAVI+ ナビプラス

小学社会

SDGs編

SDGsを踏まえた社会科授業の理論

筑波大学教授　井田 仁康

本資料は、一般社団法人教科書協会
「教科書発行者行動規範」に則り、
配布を許可されているものです。

日文の実践事例、教科情報
詳しくはWebへ!
日文 検索

※本冊子掲載QR コードのリンク先コンテンツは
予告なく変更または削除する場合があります。

※QR コードは、株式会社デンソーウェーブの登
録商標です。

未来をになう子どもたちへ
日本文教出版

SDGsを踏まえた社会科授業の理論

筑波大学教授　井田 仁康

1. SDGs を踏まえた社会科授業の理論とは

社会科の授業を実践するために、理念（目標）や内容、方法が明確にされなければならない。それを前提として、どのように授業を進めたらいいのか、その進め方である学習のプロセスを、ここでは社会科授業の理論とすることにしよう。したがって、社会科授業の理論化を図ることは、学習プロセスを明確にすることにほかならない。SDGs を踏まえた社会科授業においても学習プロセスを明確にすることが社会科授業の理論となっていく。

2. 学習プロセス

学習プロセスについては、次のように整理することができる。すなわち、①課題の把握、②資料収集、③資料整理、④分析・解釈、⑤価値判断・意思決定、⑥実行・社会参画である。社会科においての**課題の把握**は、自然や社会環境で生活するなかで課題を見いだすことである。特に、小学校では、自分が体験するなかで課題を見いだすことが、子どもたちの問題意識を高めさせることになる。一方で、世界的な環境の変化に対して、自分たちの環境に変化が見られないだろうかというような課題の設定のしかたも可能である。前者では、生活科や総合的な学習の時間において課題を見いださせ、その後の追究過程を社会科で担うという役割分担も可能であろう。後者の観点では、社会科でまず概念的な内容を学習し、総合的な学習の時間などを利用して、体験的に概念的なことを、自分たちの身近な地域で体験しながら具体的な課題を見いだすことにつなげられよう。こうした教育は、社会科のみでおこなわれるものではないので、生活科、総合的な学習の時間、理科、家庭科などと内容を関連させながら、その教科の特性を活かしつつ学習することになる。

課題が把握されれば、次のステップは、課題に関しての**資料収集**である。教科書をはじめ、副教材、文献、インターネットなどから資料を収集することになる。「反転授業」が注目されているが、「反転授業」では、家庭学習としての資料収集が重要になり、集めた資料に基づいて教室で討論（分析･解釈）がおこなわれる。資料収集の次には、それらの**資料を整理**する段階となる。環境については、地図などに表して整理すると、分析や解釈がしやすくなる。環境地図展をはじめ、いくつかの地図展があり、多くの小・中学生が応募しているが、環境に関する地図が多いのは、環境に関する事象が地図で整理しやすい証拠でもあろう。

次のステップは、整理した資料に基づき、**分析・解釈**することである。分析・解釈においては、どのような観点や方法でなされるかが、それぞれの教科や内容を特徴づける。たとえば、社会科では社会的な見方・考え方､特に地理的な内容や地理的分野での学習では、社会的事象の地理的な見方・考え方が、分析・解釈の観点となろう。環境にかかわる内容であれば、自然環境の変化、自然と人との関連性やその変化、人が自然に向き合う態度などから、分析・解釈がおこなわれよう。

こうした一連の学習プロセスから導き出された結果が発表され、多少のコメント、感想が加わり、授業が終わることが多い。ここで授業が終わると、現状の理解にとどまり、知識を習得したレベルで終わる。そこで、SDGs を意識した学習では、上記の学習プロセスにおいて、感性に訴えるような体験学習が組みこまれることが望まれる。教室外での体験学習は課題を把握するステップでも、資料収集のステップでも、また野外で実物を観察しながら分析・解釈していくことでも可能である。いずれにせよ、机上のこととして認識するのではなく、体験的に認識していくのである。その

ような学習プロセスを踏まえて、自分自身の価値や他の人の価値、社会的な価値を問いながら、意思決定をしていく、**価値判断・意思決定**のステップへと移る。このステップにより、「どうあるべきか、どうすべきか」といったものが導出される。このような価値判断・意思決定により、**社会参画**へとつながる。つまり、探究・活用のレベルへと達するのである。

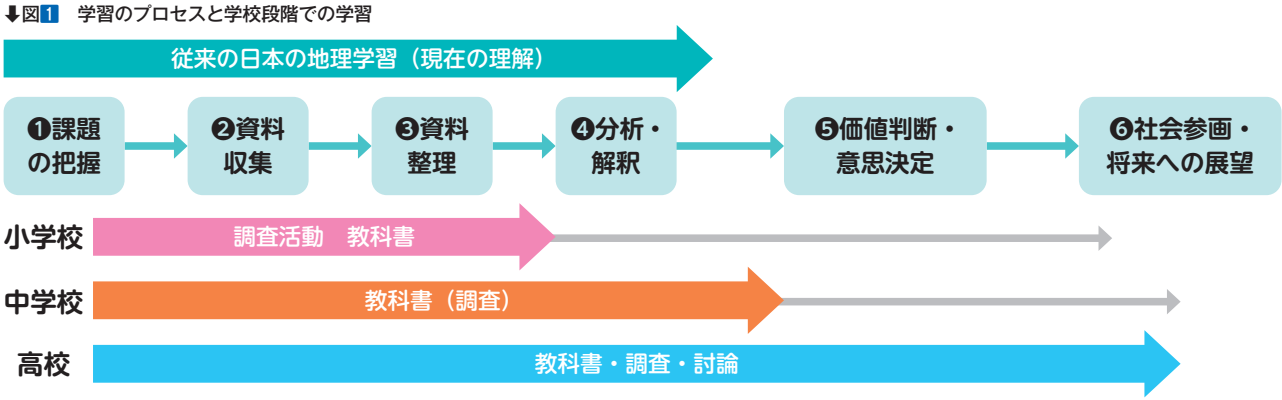
3. SDGs を踏まえた小・中学校の学習プロセスと ESD

SDGs は、小学校にとどまらず、中学校、高等学校へと続いていく。それぞれの学校段階で完結せずに、小・中・高等学校の関連性を考慮して、学習プロセスの役割を示すと**図1**のようになろう。小学校では、調査活動や教科書を通して、課題の把握や資料の収集、資料の整理がおこなわれ、分析・解釈までおこなわれる。一方小学校では、学習方法が重視された学習内容となるので、分析・解釈の観点は広くなるが、十分な体系だった知識が得られていないことから、分析・解釈を深めることは難しい。しかし、調べ学習が進み、十分な知識が得られる場合は、分析・解釈が深まることもある。中学校では、教科書により概念的、体系的に知識が整えられ、分析・解釈の観点が明瞭化される。これらの学校段階での学習内容を踏まえ、高等学校では分析・解釈時における討論なども踏まえ、知識と多面的、多角的な観点から価値判断・意思決定がなされ、現実を見据えた将来への展望・社会参画へと進んでいく。

小学校の学習でも、価値判断や意思決定、社会参画に導く学習はある。しかし、多くの場合、その結論は決まっていて、分析・解釈を踏まえたうえでの、価値判断・意思決定にいたっているとはいえない。たとえば、ごみの学習では、ごみを分けて出すべきという価値判断・意思決定は、すでに学習前から決められており、ごみの学習を通してごみを分けて出す理由がわかることが実質的な学習内容となっている。むろん、その学習内容によって、ごみを分けて出すことに積極的になるなどの態度の改善はみられるだろうが、多くの知識や様々な意見がぶつかり合うなかで、新しい価値観ができたとは言いがたい。しかし、小学校段階では、根拠なくおこなっていた今までの行為に、意味をもたせることは重要で、それがあればこそ、批判的思考や自分の意見をもった討論ができるようになる。以上のように、**小学校では、調査活動などにより体験的に環境を認識し、将来的に批判的思考や討論ができるような自分の意見をもつようになることが重要であろう。**その認識や意見は知識の増加や見方が広くなることにより、将来的には変わるだろうが、体験や資料などから自身の考え方が引き出せるようなスキルを身につけさせるべきであろう。換言すれば、分析・解釈、および価値判断・意思決定していく学習プロセスの道筋がみえてくる、もしくはその基礎をしっかり身につけることが、小学校の教育では肝要なのである。

一方中学校段階では、学習プロセスそのものは、小学校とは変わらないが、**社会科の目標や内容を加味すれば、基礎となる知識が増え、より一層現実的で広角的な視野での学習が求められる。**その例が、地理的分野の「日本の諸地域をふりかえろう」にみられる。世界や日本の学習を終えたあとで、SDGs が達成できているかを判断する。ここでは、感覚的に判断するのではなく、学習した内容を根拠として判断することになる。また、公民的分野においても SDGs と照らし合

⬇図1　学習のプロセスと学校段階での学習



⬇表1　教科書の単元と SDGs の目標例

学年	教科書の目次（単元）	関連する SDGs の目標例
3	わたしたちの住んでいるところ	⑪住み続けられるまちづくりを
	わたしたちのくらしとまちではたらく人びと	⑧働きがいも経済成長も
	安全なくらしを守る	⑯平和と公正をすべての人に
	市のようすとくらしのうつりかわり	⑨産業と技術革新の基盤をつくろう
4	わたしたちの県	⑪住み続けられるまちづくりを
	健康なくらしを守る仕事	③すべての人に健康と福祉を
	自然災害から人々を守る活動	⑬気候変動に具体的な対策を
	くらしのなかに伝わる願い	⑪住み続けられるまちづくりを
	地いきの発てんにつくした人々	①貧困をなくそう
	わたしたちの住んでいる県	⑪住み続けられるまちづくりを
5	日本の国土と人々のくらし	⑪住み続けられるまちづくりを
	わたしたちの食生活を支える食料生産	②飢餓をゼロに
	工業生産とわたしたちのくらし	⑨産業と技術革新の基盤をつくろう
	情報社会に生きるわたしたち	⑩人や国の不平等をなくそう
	国土の環境を守る	⑥安全な水とトイレを世界中に　⑦エネルギーをみんなに　そしてクリーンに　⑭海の豊かさを守ろう　⑮陸の豊かさも守ろう
6	わが国の政治のはたらき	⑯平和と公正をすべての人に
	日本のあゆみ	④質の高い教育をみんなに
	世界のなかの日本とわたしたち	⑰パートナーシップで目標を達成しよう

わせながら、日本の現状を考え、持続可能な社会をめざそうとする。ここでも地理的分野と同様に、学習プロセスでの⑤⑥における価値判断や意思決定、社会参画に SDGs が位置づけられる。

小学校の教科書で SDGs が言葉としてでてくるのは、令和２年度版日本文教出版『小学社会』においては６年の「世界のなかの日本とわたしたち」で、最後のまとめのページである。しかし、SDGs は、社会科の内容すべてにかかわっている。**表1**は、教科書の単元別に関連する SDGs の目標の例をあげたものである。小学校全体でみれば、多くの SDGs の目標が社会科の内容とかかわっていることがわかる。すなわち、社会科の授業は、意識していなくても、SDGs とのかかわりをもった学習となるのである。

中学校の教科書においても、価値判断や意思決定でのプロセスで SDGs を位置づけるだけでなく、SDGs そのものが社会科授業として理論化された学習として定着させることが、将来の地球や持続可能な社会を構築していくうえでも重要な観点となるだろう。

社会科は、社会的事象の理解から未来志向へと変わってきている。この傾向は将来的にも変わらないであろう。しかし、**未来を志向するためには現状を理解し、課題を見いだし、その課題を克服するような未来志向でなければならない。SDGs は、未来志向のための現状を評価し、未来への指針を示す概念として有用なのである。**

参考文献
井田仁康（2020）：「SDGs と社会科」「小学社会」指導書編集委員会編『小学社会　教師用指導書　総論』日本文教出版、pp.150-157.

社会科 NAVI ＋　小学社会⑥

日文教育資料［小学校社会］
令和５年（2023 年）１月 10 日発行
編集・発行人　佐々木秀樹
発行所　日本文教出版株式会社
〒558-0041　大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL：06-6692-1261

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD33623

日本文教出版 株式会社
https://www.nichibun-g.co.jp/

大阪本社　〒558-0041　大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL:06-6692-1261　FAX:06-6606-5171
東京本社　〒165-0026　東京都中野区新井1-2-16
TEL:03-3389-4611　FAX:03-3389-4618
九州支社　〒810-0022　福岡市中央区薬院3-11-14
TEL:092-531-7696　FAX:092-521-3938
東海支社　〒461-0004　名古屋市東区葵1-13-18-7F・B
TEL:052-979-7260　FAX:052-979-7261
北海道出張所　〒001-0909　札幌市北区新琴似9-12-1-1
TEL:011-764-1201　FAX:011-764-0690